

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ  
(2024年1月22日(月)~28日(日))

岸和田聖書教会  
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまを食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどを箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

1月22日(月)

今日の聖書日課：マタイ 10:1~15

12使徒の名は次のとおりである。まず、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ。ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、ピリポとバルトロマイ、トマスと取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブとタダイ、熱心党員のシモンと、イエスを裏切ったイスカリオテのユダである。

マタイ 10:2~4

イエスは12弟子を任命されました。そのリストです。よく見ると2人×6=12人。イエスの弟子になったときに二人で導かれた人たちもいました(ペテロ・アンデレやヤコブ・ヨハネのように)。同時に、12弟子としての働きの中でも、それぞれ二人組を主が組まれたのではないのでしょうか。ルカ 10:1では、主が72人の弟子たちを二人ずつ遣わされたとあります。

教会という大きなチームの中にも二人組。特に祈り、励まし合う仲間が必要です。あなたはどうかですか？

1月23日(火)

今日の聖書日課：マタイ 10:16~33

人々があなたがたを引き渡したとき、何をどう話そうかと心配しなくてもよいのです。話すことは、そのとき与えられるからです。話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話される、あなたがたの父の御霊です。マタイ 10:19

10章は、イエスが12弟子を任命するだけでなく、彼らに対してさまざまな注意事項を語られた、そのことが記されています。イエスは、弟子たちが福音を語る時に会う迫害を想定し、そのときにどうすればよいか、ということ細かく語られました。上記のことばは捕まえられたときのことです。このようなときにこそ、聖霊は弟子たちのうちで働かれ、迫害する者たちに対して福音を語らせるのです。

あなたにある「ピンチ」。今、このときこそ、聖霊さまがあなたのうちに満ちあふれるのです。

1月24日（水）

今日の聖書日課：マタイ 10：34～42

自分の十字架を負ってわたしに従って来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。自分のいのちを得る者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを得るのです。

マタイ 10：38～39

十字架とは死刑の道具。自分の十字架を負うとは、死を覚悟して、ということ。自分のいのちを得るとそれを失い、イエスのために自分のいのちを失うとそれを得る。なんときびしいのか、と思います。しかしそれが十字架の道。そして十字架の道のその向こうにあるのは復活。「いのちを失うと、それを得る」のです。罪の赦しと新しいいのち。終わらないいのち。イエスについて行く私たちに備えられた道です。

1月25日（木）

今日の聖書日課：マタイ 11：1～19

イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしていることをヨハネに伝えなさい。」 マタイ 11：4

バプテスマのヨハネ。イエスの親戚にして、同い年。何よりもイエスの前にその道を整えた預言者。そのヨハネがイエスのことを疑いました。牢獄にいる自分が放っておかれていると思ったからです。弟子たちを通して、あなたは本当にメシアなのか？と問われたイエスが語られたことばが冒頭の聖句。イエスが行っていること、語られたこと、それは神の国の現われでした。ヨハネはこれ（5節）を聞いて、きっと自分中心の罪に気づき、イエスを、神を改めて信じたことでしょう。

1月26日（金）

今日の聖書日課：マタイ 11：20～30

すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。 マタイ 11：28

25～30節は、一つのかぎかっこの中に収められているイエスのことばです。しかし、よく見てください。25～26節は御父に語られています。27～30節はそこにいた人々に語られています。上記の有名な聖句はイエスが人々に向かって語られたことば。しかしこれは、主が御父に祈った結果、語られた、与えられたことばなのです。神さまとの親しい交わり、その中から私たちも周りの人たちに神さまの招きのことばを語る事ができるのです。

1月27日（土）

今日の聖書日課：マタイ 12：1～8

人の子は安息日の主です。 マタイ 12：8

弟子たちが儀式的に安息日を守っていないとイエスを非難するパリサイ人たち。イエスは彼らに答えられました。それが今日の聖書日課。イエスは、安息日は人のために設けられたのであって、人が安息日のために造られたのではない（マルコ 2：27）ということを示されました。「安息日の主」とは安息日の制定者という意味。「これなんのため？」と思ったら、それを造った人のところに行けばよいのです。イエスさまは、安息日の主なのです。それを考えて改めて読んでみましょう。

1月28日（日） 本日の歓迎礼拝説教箇所：マタイ 12：9～21 「わたしの羊」